

(8) 疼痛の看護

予防有用型では、疼痛の看護については、初回は、「ない」が5,493名(83.3%)で、「ある」が1,104名(16.7%)であった。2回目は、「ない」が5,460名(82.8%)で、「ある」が1,137名(17.2%)であった。3回目は、「ない」が5,489名(83.2%)で、「ある」が1,108名(16.8%)であった。4回目は、「ない」が5,479名(83.1%)で、「ある」が1,118名(16.9%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「ある」の割合はあまり変化していなかったが、全体の傾向よりも、予防有用型群のほうが疼痛の看護を受けた割合がすべての回において高かった。

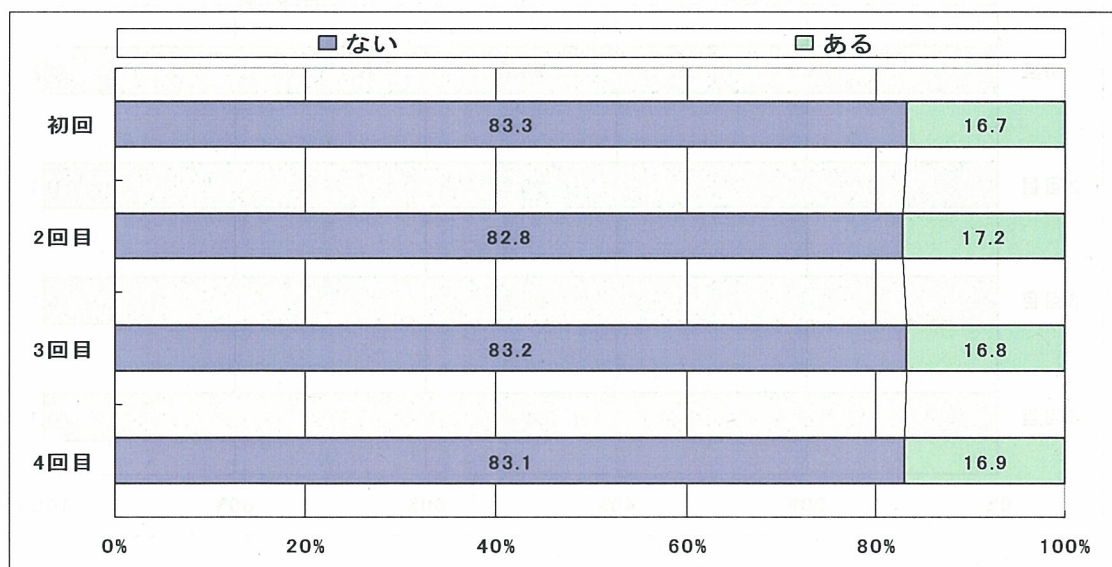


図 335・336 疼痛の看護 (上:全体N=16,156, 下:予防有用型N=6,597)

(9) 経管栄養

予防有用型では、経管栄養について、初回は、「ない」が6,588名(99.9%)で、「ある」が9名(0.1%)であった。2回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ある」が6名(0.1%)であった。3回目は、「ない」が6,593名(99.9%)で、「ある」が4名(0.1%)であった。4回目は、「ない」が6,594名(100.0%)で、「ある」が3名(0.0%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「経管栄養」は発生しておらず、その割合にも回数別の変化はほとんどなかった。

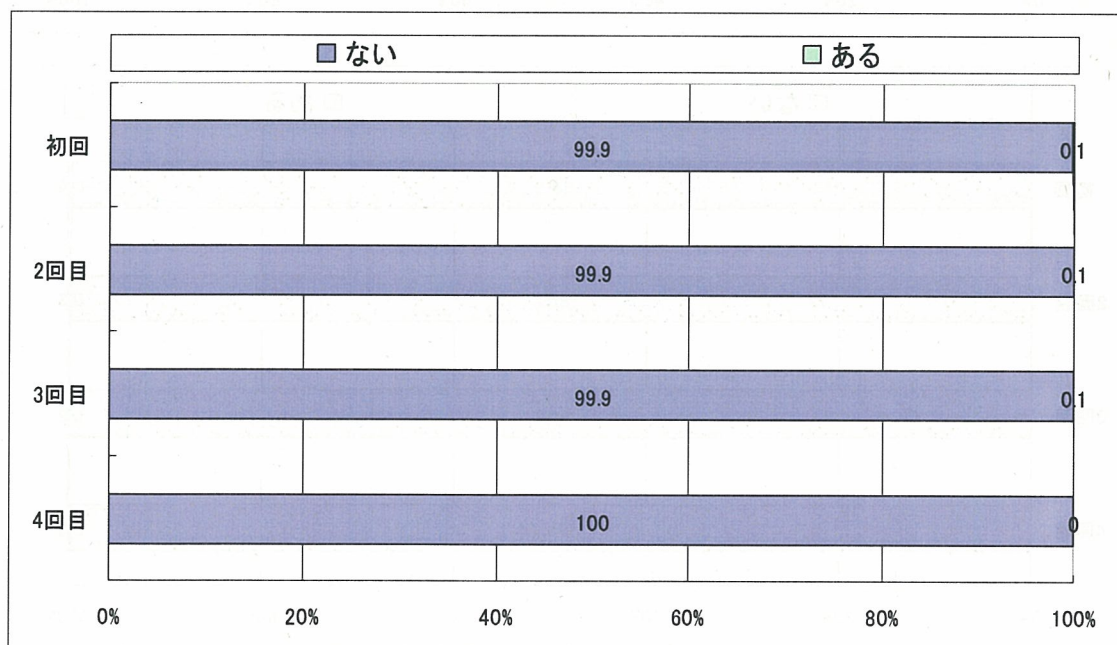
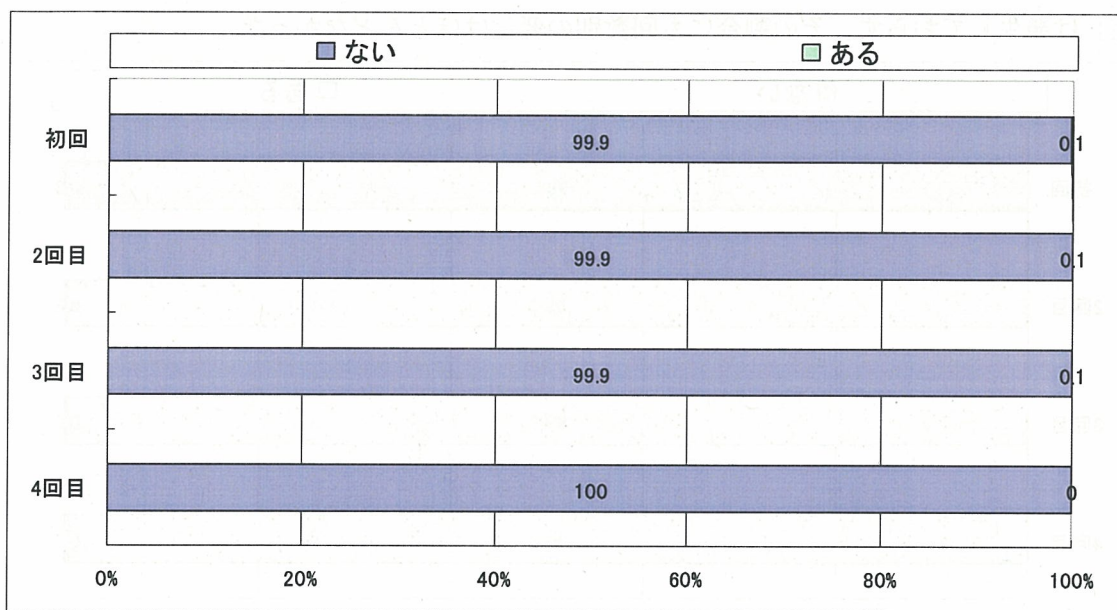


図 337・338 経管栄養 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(10) モニター測定

予防有用型では、モニター測定については、初回は、「ない」が6,569名(99.6%)で、「ある」が28名(0.4%)であった。2回目は、「ない」が6,579名(99.7%)で、「ある」が18名(0.3%)であった。3回目は、「ない」が6,585名(99.8%)で、「ある」が12名(0.2%)であった。4回目は、「ない」が6,580名(99.7%)で、「ある」が17名(0.3%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「モニター測定」は発生しておらず、その割合にも回数別の変化はほとんどなかった。

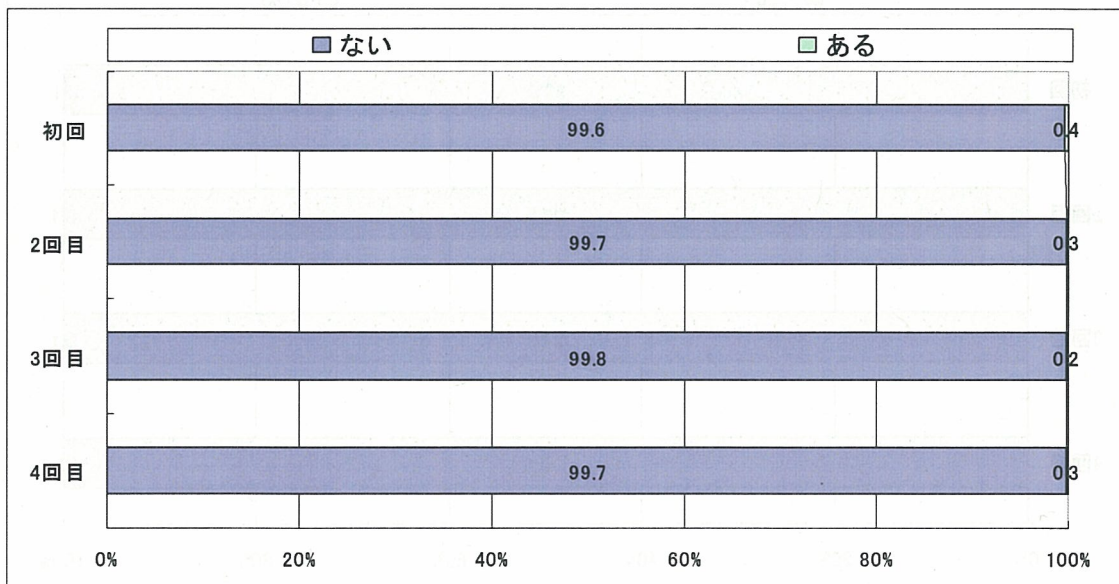
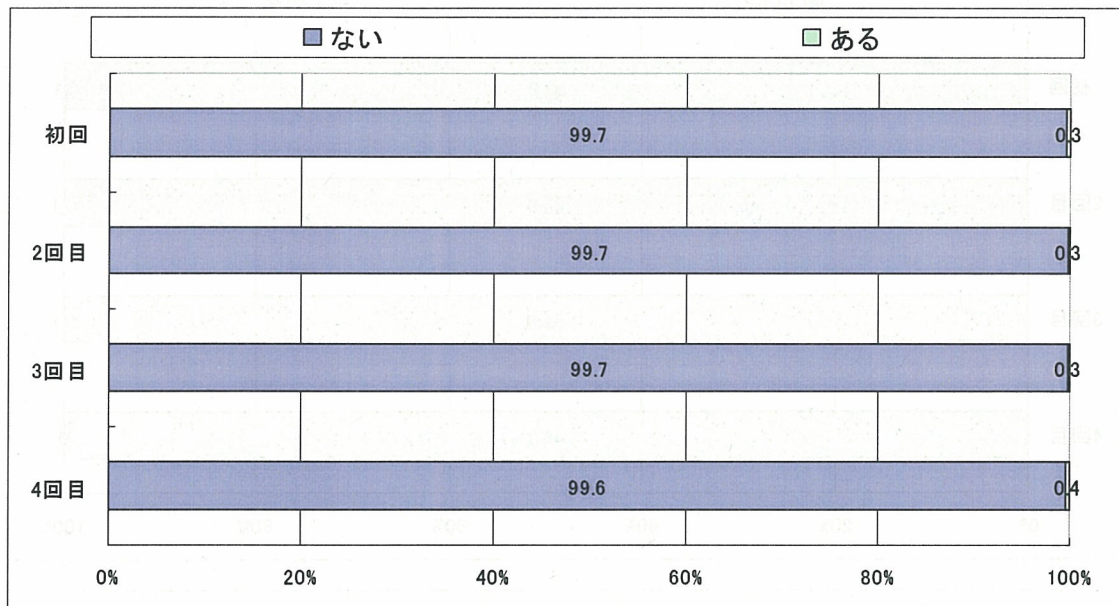


図 339・340 モニター測定 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(11) じょくそうの処置

予防有用型では、じょくそうの処置について、初回は、「ない」が6,548名(99.3%)で、「ある」が49名(0.7%)であった。2回目は、「ない」が6,577名(99.7%)で、「ある」が20名(0.3%)であった。3回目は、「ない」が6,576名(99.7%)で、「ある」が21名(0.3%)であった。4回目は、「ない」が6,574名(99.7%)で、「ある」が23名(0.3%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群についても、初回から4回目にかけて「じょくそうの処置」は発生しておらず、その割合にも回数別の変化はほとんどなかった。

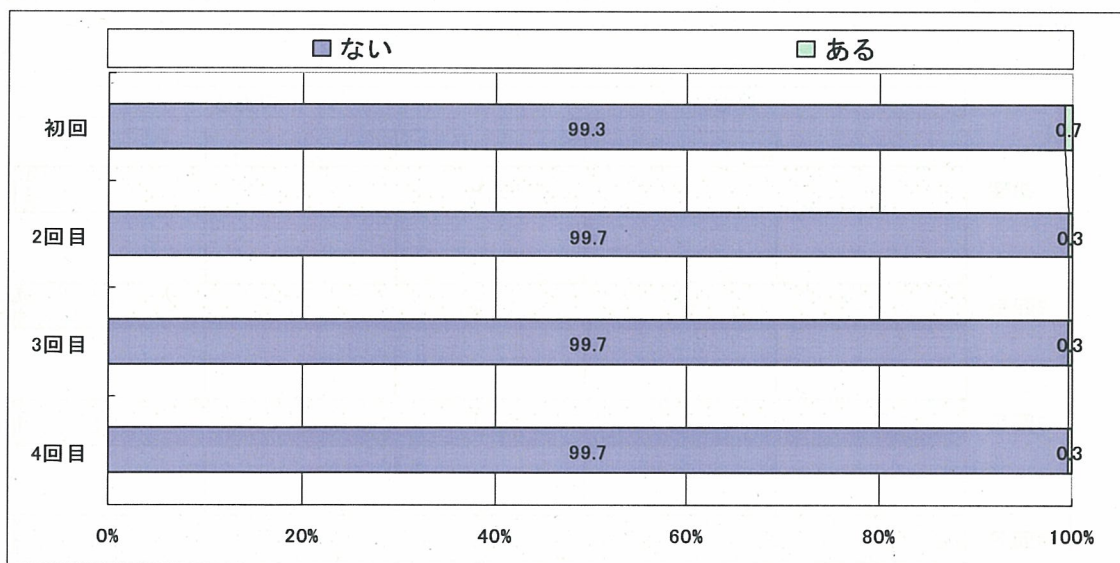
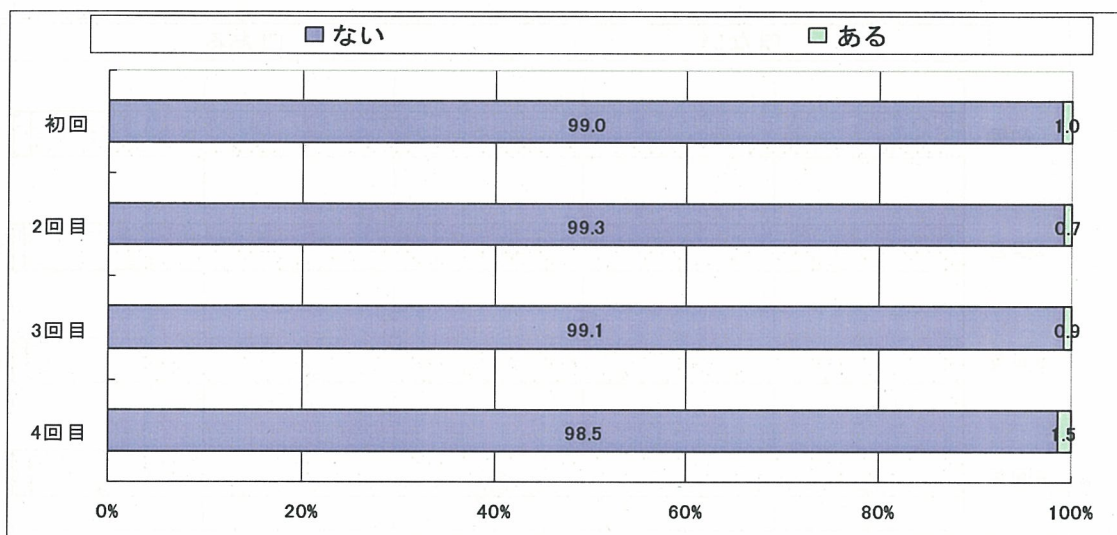


図 341・342 じょくそうの処置 (上：全体N=16,156, 下：予防有用型N=6,597)

(12) カテーテル

予防有用型では、カテーテルについて、初回は、「ない」が6,509名(98.7%)で、「ある」が88名(1.3%)であった。2回目は、「ない」が6,552名(99.3%)で、「ある」が45名(0.7%)であった。3回目は、「ない」が6,556名(99.4%)で、「ある」が41名(0.6%)であった。4回目は、「ない」が6,567名(99.5%)で、「ある」が30名(0.5%)であった。

全体の傾向と比べて、予防有用型群については、初回から4回目にかけて「カテーテルあり」の割合が減少していた。

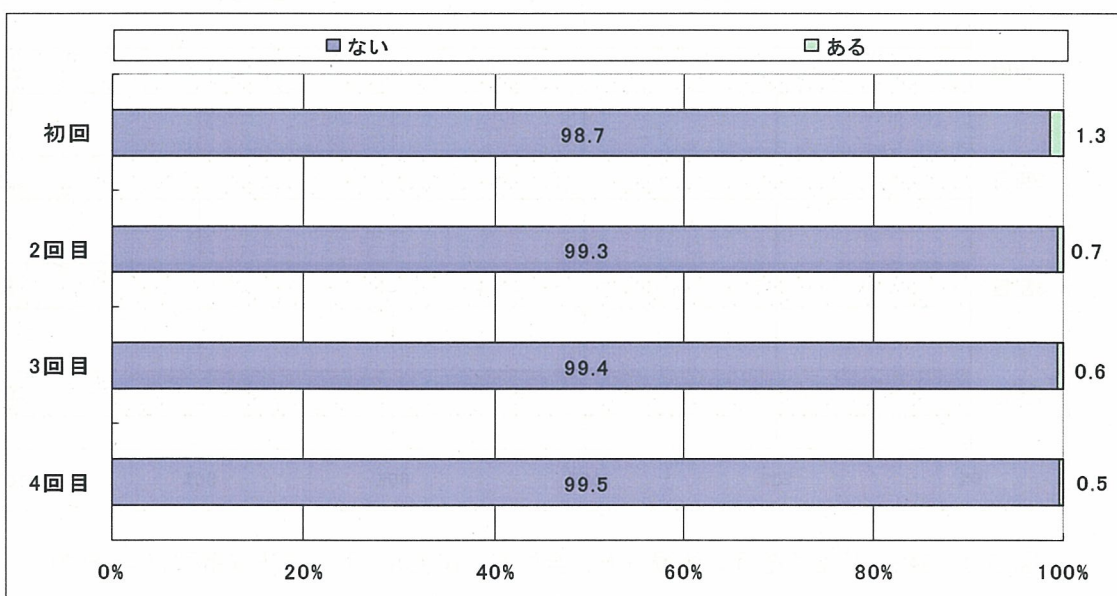
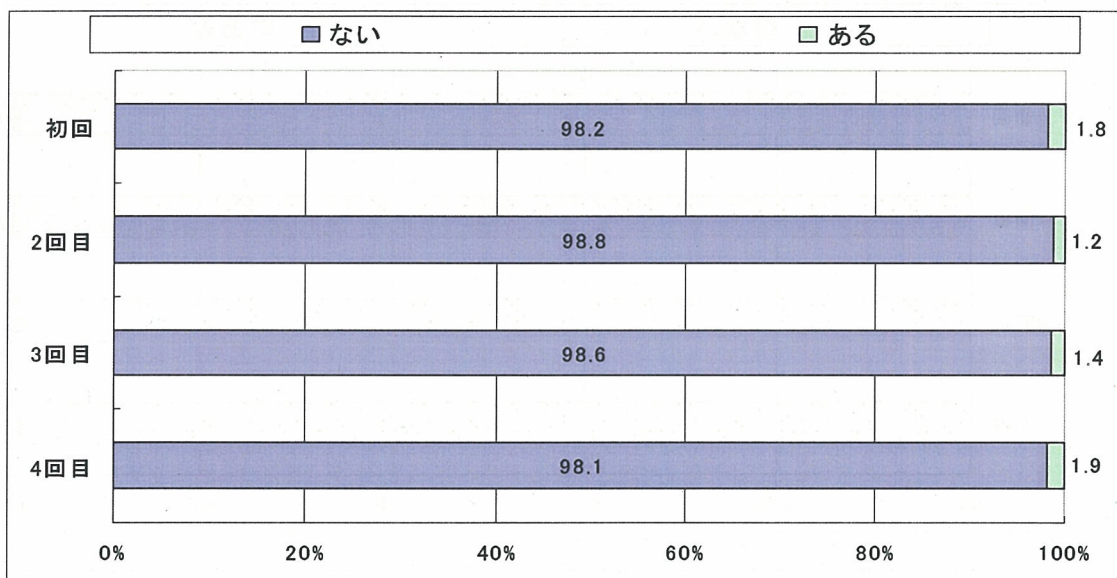


図 343・344 カテーテル (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

3.要介護認定ロジック改訂前の旧項目からみた経年的変化

(1) 両足での座位

予防有用型では、両足での座位について、初回は、「できる」が4,909名(74.4%)で、「自分の手で支えればできる」が1,102名(16.7%)で、「支えてもらえばできる」が529名(8.0%)で、「できない」が57名(0.9%)であった。2回目は、「できる」が5,065名(76.8%)で、「自分の手で支えればできる」が1,120名(17.0%)で、「支えてもらえばできる」が394名(6.0%)で、「できない」が18名(0.3%)であった。3回目は、「できる」が5,023名(76.1%)で、「自分の手で支えればできる」が1,169名(17.7%)で、「支えてもらえばできる」が386名(5.9%)で、「できない」が19名(0.3%)であった。4回目は、「できる」が4,991名(75.7%)で、「自分の手で支えればできる」が1,228名(18.6%)で、「支えてもらえばできる」が370名(5.6%)で、「できない」が8名(0.1%)であった。

全体の傾向と比べて、予防有用型群では、初回から4回目にかけて「支えてもらえばできる」「できない」の割合が減少していた。

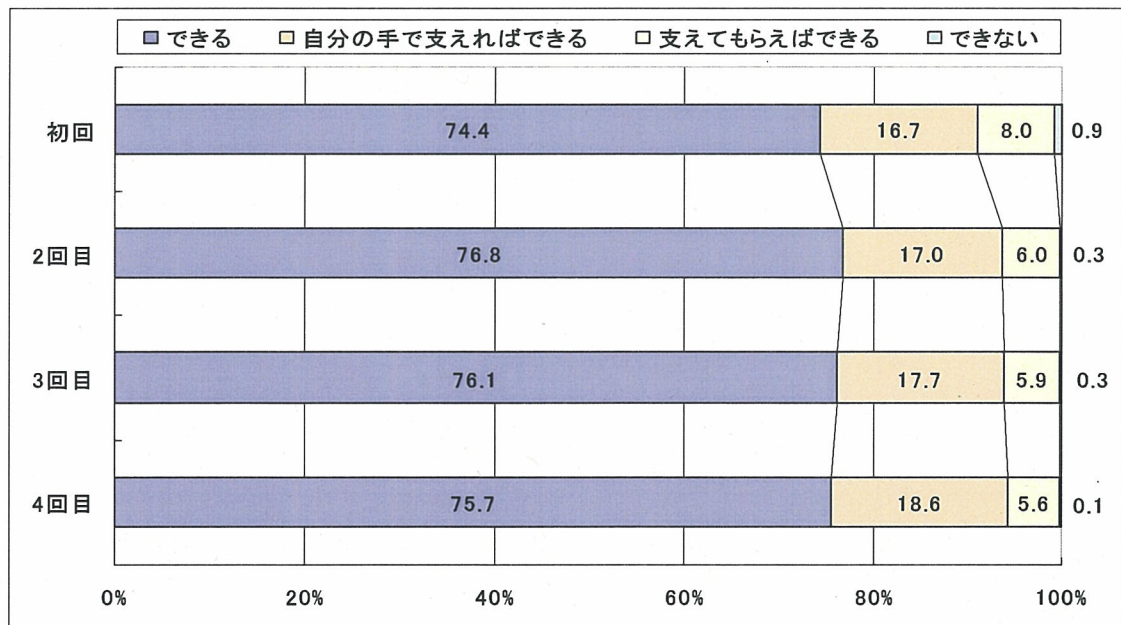
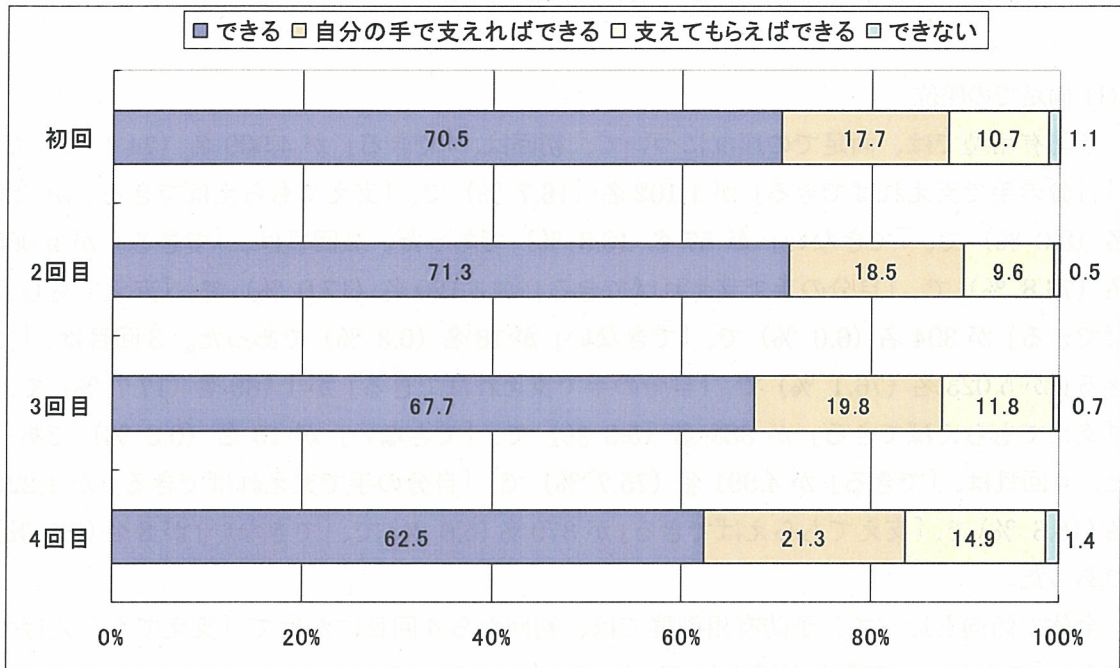


図 345・346 両足で座位 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(2) 両足つかない座位

予防有用型では、両足つかない座位について、初回は、「できる」が2,735名(41.5%)で、「自分の手で支えればできる」が2,608名(39.5%)で、「支えてもらえばできる」が1,082名(16.4%)で、「できない」が172名(2.6%)であった。2回目は、「できる」が2,681名(40.6%)で、「自分の手で支えればできる」が2,853名(43.2%)で、「支えてもらえばできる」が983名(14.9%)で、「できない」が80名(1.2%)であった。3回目は、「できる」が2,589名(39.2%)で、「自分の手で支えればできる」が2,943名(44.6%)で、「支えてもらえばできる」が989名(15.0%)で、「できない」が76名(1.2%)であった。4回目は、「できる」が2,381名(36.1%)で、「自分の手で支えればできる」が3,150名(47.7%)で、「支えてもらえばできる」が1,014名(15.4%)で、「できない」が52名(0.8%)であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群では、初回から4回目にかけて「できない」の割合が減少していた。

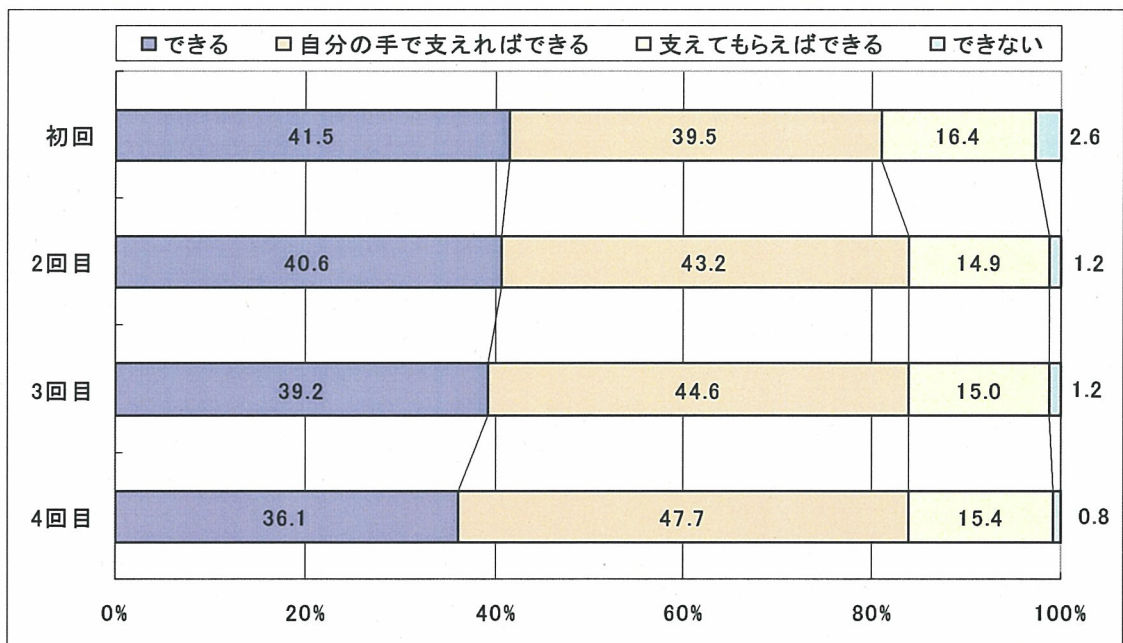
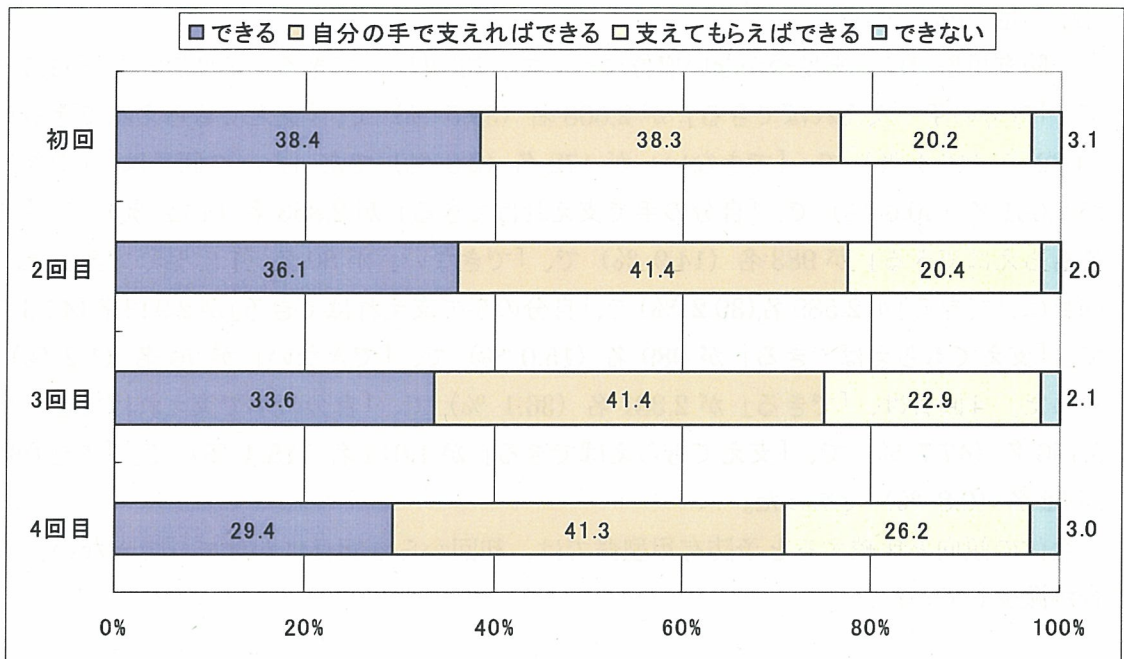


図 347・348 両足つかない座位 (上：全体N=16,156, 下：予防有用型N=6,597)

(3) 浴槽の出入り

予防有用型では、浴槽の出入りについては、初回は、「自立」が3,362名(51.0%)で、「一部介助」が2,027名(30.7%)で、「全介助」が298名(4.5%)で、「行っていない」が910名(13.8%)であった。2回目は、「自立」が3,472名(52.6%)で、「一部介助」が2,332名(35.3%)で、「全介助」が306名(4.6%)で、「行っていない」が487名(7.4%)であった。3回目は、「自立」が3,268名(49.5%)で、「一部介助」が2,564名(38.9%)で、「全介助」が299名(4.5%)で、「行っていない」が466名(7.1%)であった。4回目は、「自立」が3,007名(45.6%)で、「一部介助」が2,914名(44.2%)で、「全介助」が263名(4.0%)で、「行っていない」が413名(6.3%)であった。

全体の傾向と比較すると予防有用型群では、初回から4回目にかけて「行っていない」の割合が減少し、2回目から4回目にかけては、「できない」の割合も減少していた。

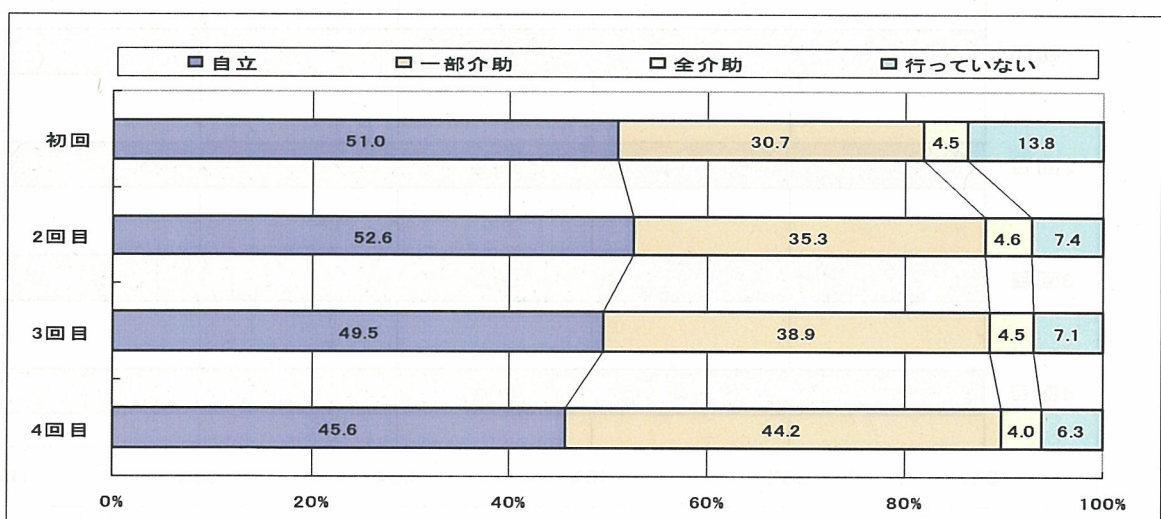
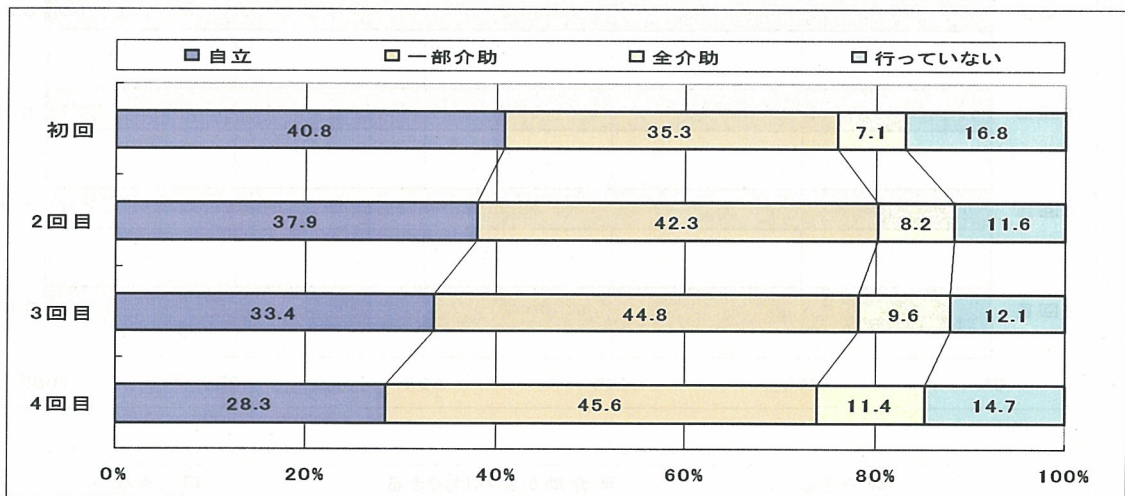


図 349・350 浴槽の出入り（上：全体N=16,156，下：予防有用型N=6,597）

(4) 片手胸元持ち上げ

予防有用型では、片手胸元持ち上げについて、初回は、「できる」が6,586名(99.8%)で、「介助があればできる」が10名(0.2%)で、「できない」が1名(0.0%)であった。2回目は、「できる」が6,588名(99.9%)で、「介助があればできる」が8名(0.1%)で、「できない」が1名(0.0%)であった。3回目は、「できる」が6,592名(99.9%)で、「介助があればできる」が4名(0.1%)で、「できない」が1名(0.0%)であった。4回目は、「できる」が6,595名(100%)で、「介助があればできる」が2名(0.0%)で、「できない」が0名(0%)であった。

全体の傾向と同様に、予防有用型群でも、初回から4回目にかけて「ある」の割合は、ほとんど変化しておらず、99.8%以上の者ができると回答された。

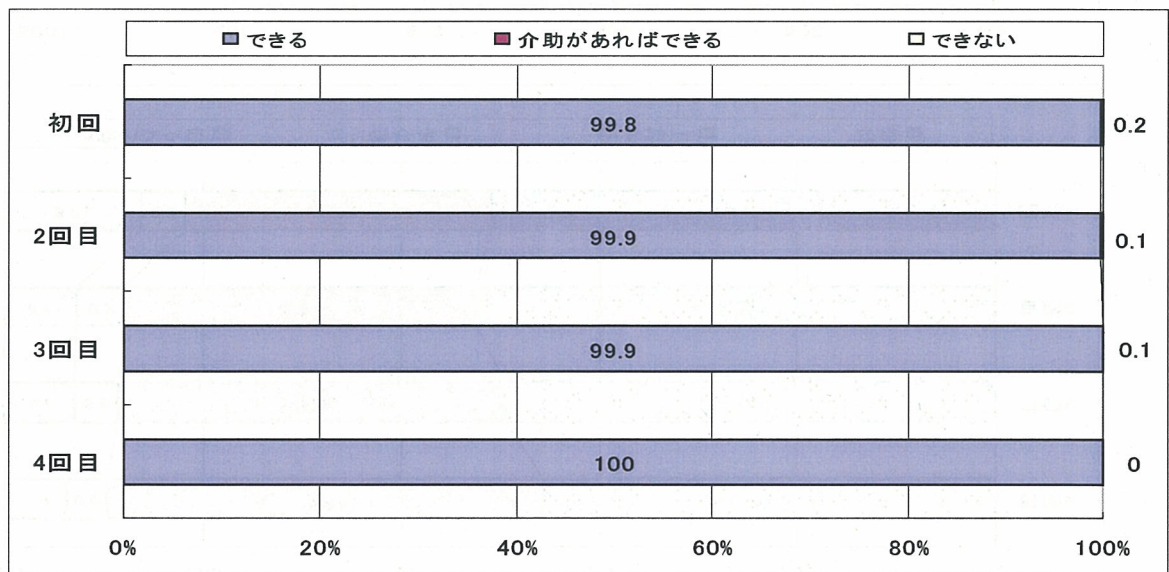
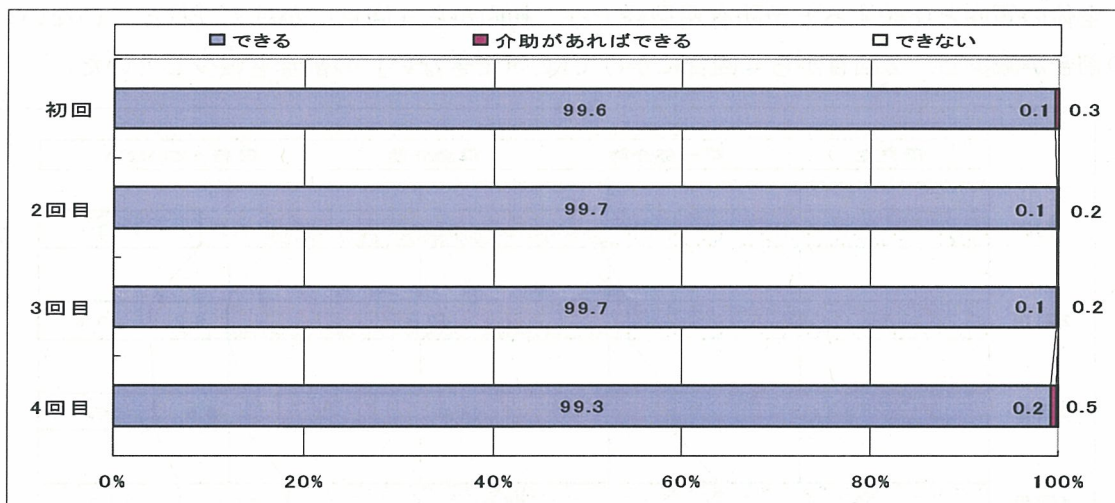


図 351・352 片手胸元持ち上げ (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(5) 尿意

予防有用型では、尿意について、初回は、「ある」が6,322名(95.8%)で、「ときどきある」が212名(3.2%)で、「ない」が63名(1.0%)であった。2回目は、「ある」が6,337名(96.1%)で、「ときどきある」が222名(3.4%)で、「ない」が38名(0.6%)であった。3回目は、「ある」が6,285名(95.3%)で、「ときどきある」が275名(4.2%)で、「ない」が37名(0.6%)であった。4回目は、「ある」が6,271名(95.1%)で、「ときどきある」が301名(4.6%)で、「ない」が25名(0.4%)であった。

全体としては、は初回から4回目にかけて「ときどきある」「ない」の割合が漸次、増加していたが、予防有用型群については、初回から2回目で減少し、3回目、4回目でわずかに増加するが、4回を通じて、ほとんど変化していなかった。

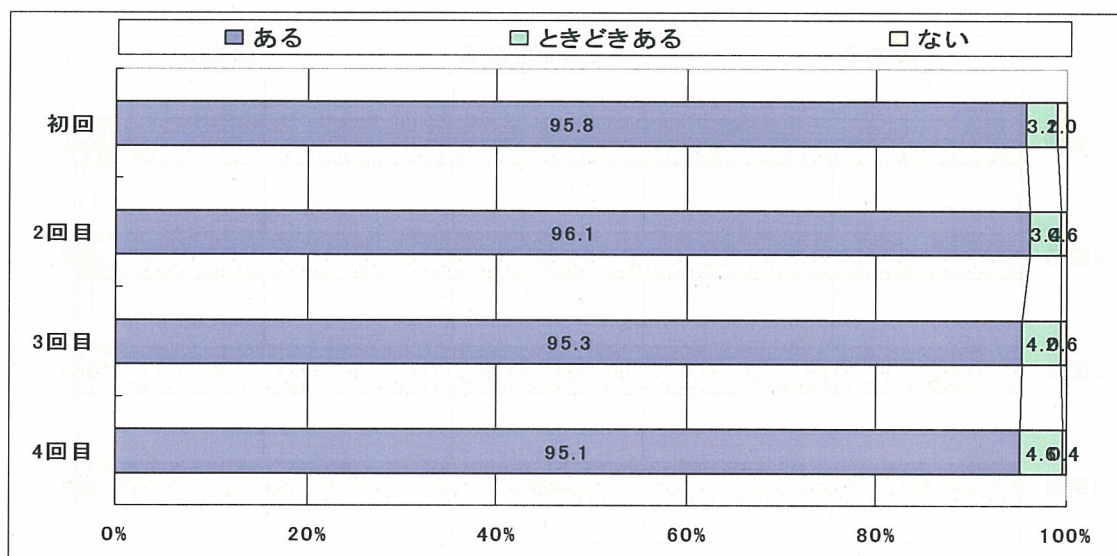
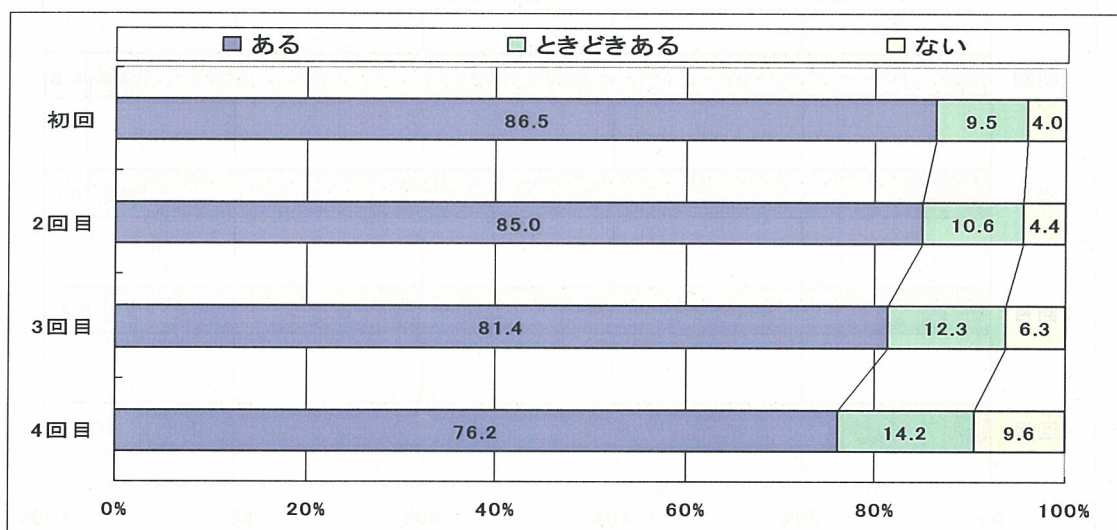


図 353・354 尿意 (上:全体N=16,156, 下:予防有用型N=6,597)

(6) 便意

予防有用型では、便意について、初回は、「ある」が6,430名(97.5%)で、「ときどきある」が104名(1.6%)で、「ない」が63名(1.0%)であった。2回目は、「ある」が6,479名(98.2%)で、「ときどきある」が85名(1.3%)で、「ない」が33名(0.5%)であった。3回目は、「ある」が6,473名(98.1%)で、「ときどきある」が98名(1.5%)で、「ない」が26名(0.4%)であった。4回目は、「ある」が6,489名(98.4%)で、「ときどきある」が91名(1.4%)で、「ない」が17名(0.3%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「ときどきある」「ない」の割合が増加しているが、予防有用型群については、この割合が減少していた。

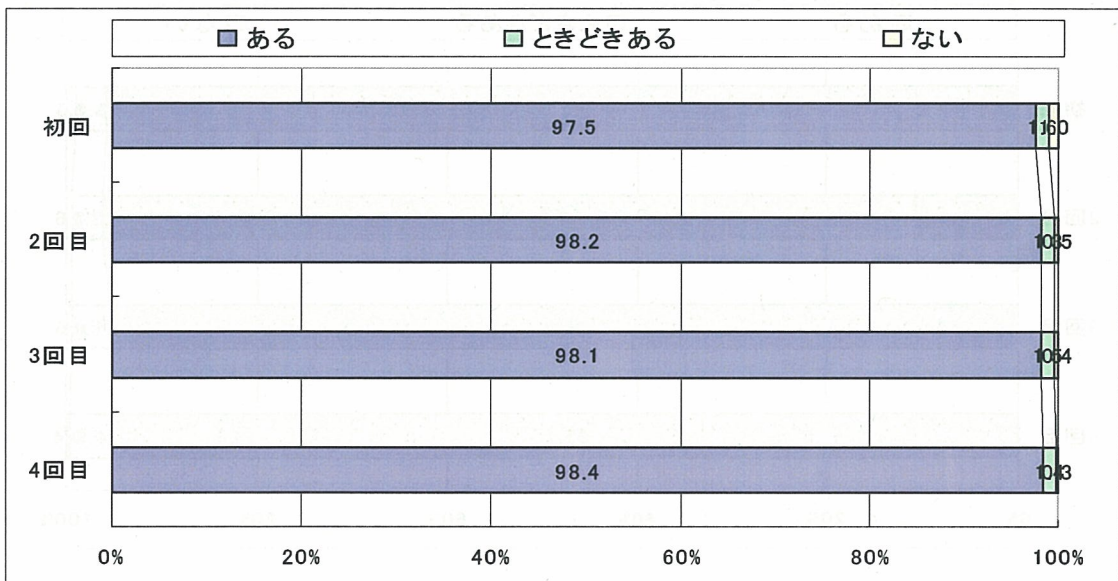
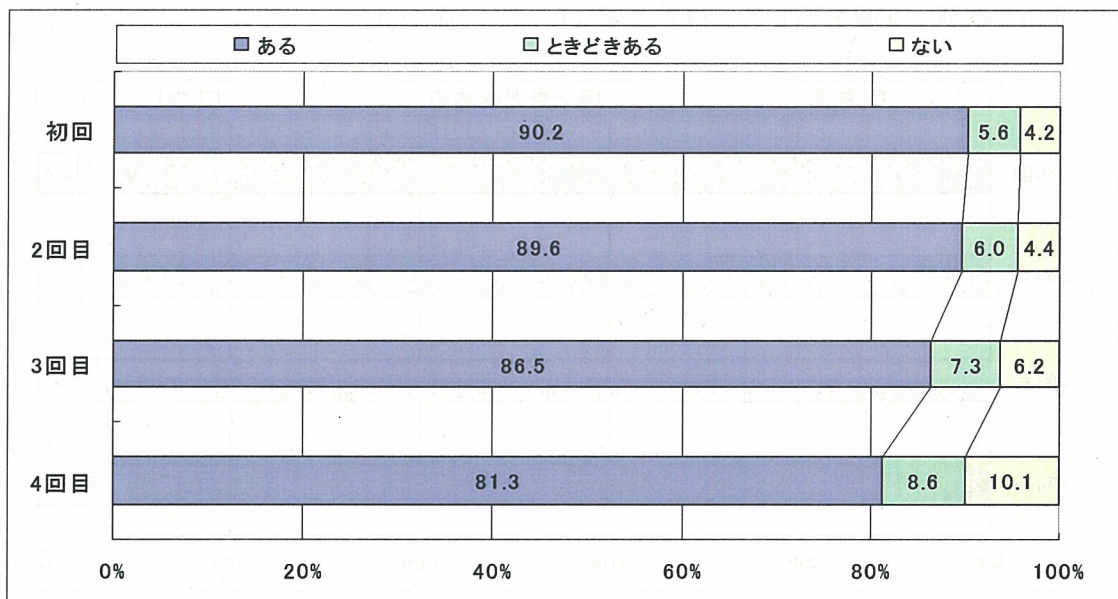


図 355・356 便意 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(7) 尿後の後始末

予防有用型では、排尿後の後始末について、初回は、「自立」が4,924名(74.6%)で、「間接的援助」が1,341名(20.3%)で、「直接的援助」が124名(1.9%)で、「全介助」が208名(3.2%)であった。2回目は、「自立」が5,134名(77.8%)で、「間接的援助」が1,288名(19.5%)で、「直接的援助」が83名(1.3%)で、「全介助」が92名(1.4%)であった。3回目は、「自立」が5,085名(77.1%)で、「間接的援助」が1,328名(20.1%)で、「直接的援助」が83名(1.3%)で、「全介助」が101名(1.5%)であった。4回目は、「自立」が5,008名(75.9%)で、「間接的援助」が1,485名(22.5%)で、「直接的援助」が67名(1.0%)で、「全介助」が37名(0.6%)であった。

全体の傾向と比べて、全体は初回から4回目にかけて「直接的援助」「全介助」の割合が増加しているが、予防有用型群は、認定回数が増えるにしたがって減少していた。

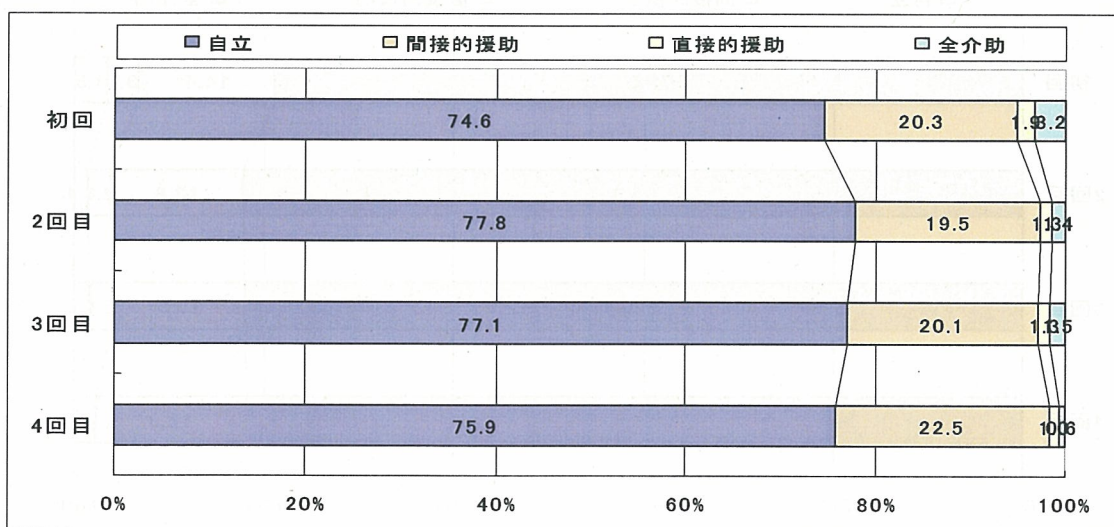
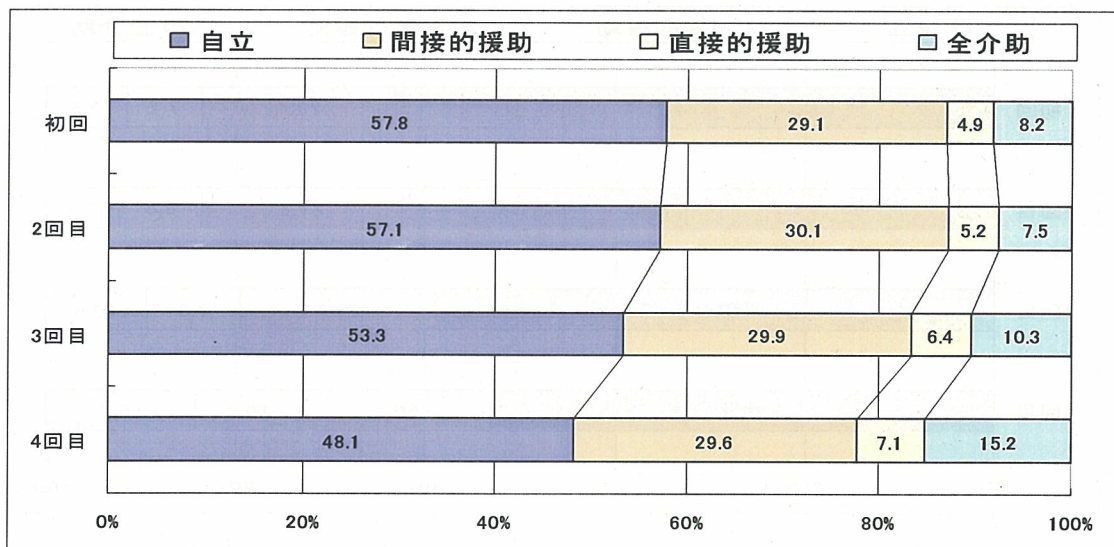


図 357・358 排尿後の後始末 (上：全体 N=16,156, 下：予防有用型 N=6,597)

(8) 排便後の後始末

予防有用型では、排便後の後始末については、初回は、「自立」が5,210名(79.0%)で、「間接的援助」が950名(14.4%)で、「直接的援助」が204名(3.1%)で、「全介助」が233名(3.5%)であった。2回目は、「自立」が5,428名(82.3%)で、「間接的援助」が920名(13.9%)で、「直接的援助」が156名(2.4%)で、「全介助」が93名(1.4%)であった。3回目は、「自立」が5,416名(82.1%)で、「間接的援助」が917名(13.9%)で、「直接的援助」が158名(2.4%)で、「全介助」が106名(1.6%)であった。4回目は、「自立」が5,395名(81.8%)で、「間接的援助」が1,048名(15.9%)で、「直接的援助」が127名(1.9%)で、「全介助」が27名(0.4%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「直接的援助」「全介助」の割合が増加していたが予防有用型群については、減少していた。

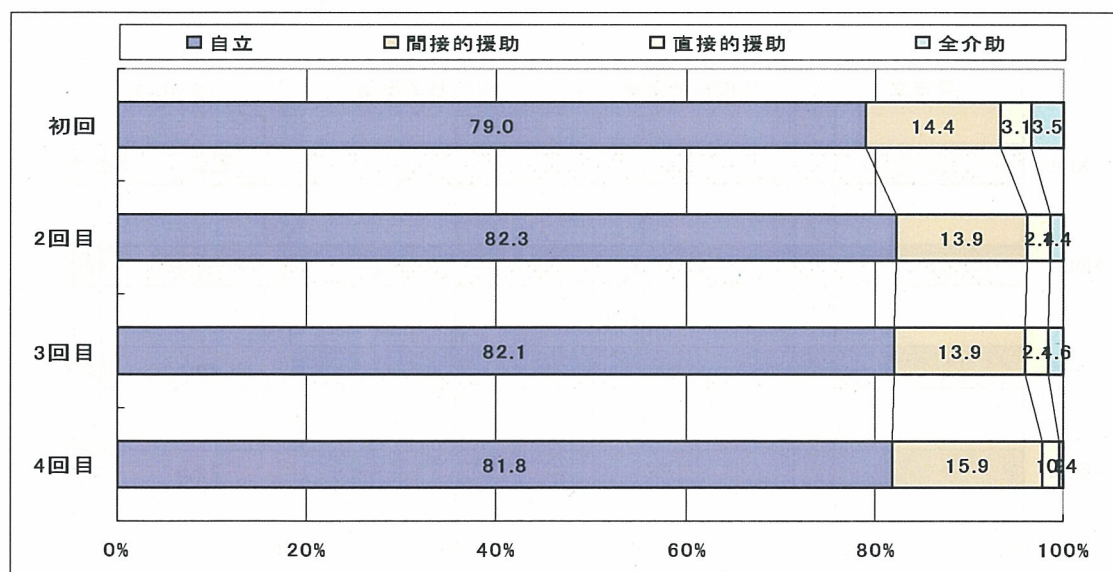
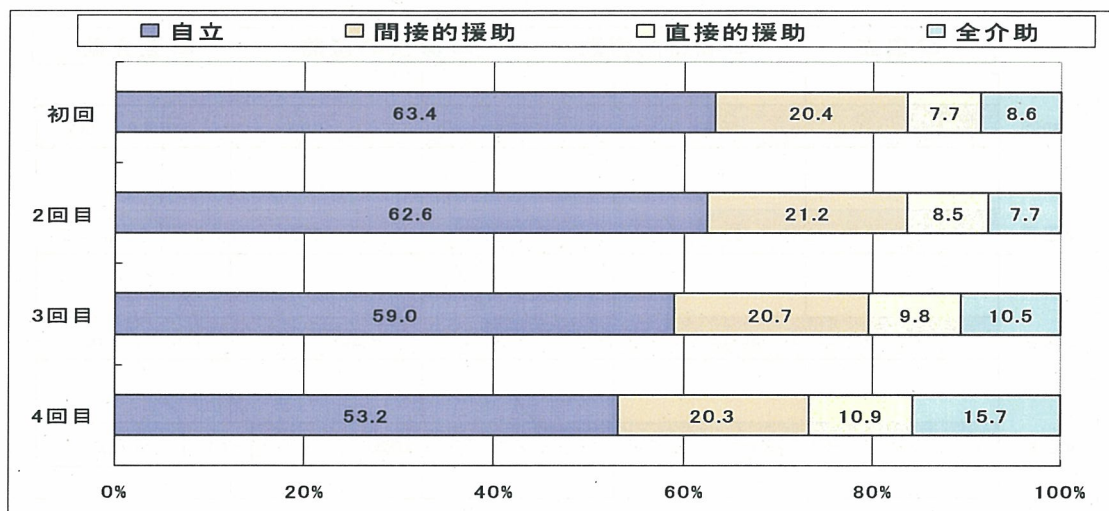


図 359・360 排便後の後始末 (上：全体 N=16,156, 下：予防有用型 N=6,597)

(9) ボタンのかけはずし

予防有用型では、ボタンのかけはずしについて、初回は、「自立」が5,399名(81.8%)で、「見守り等」が349名(5.3%)で、「一部介助」が524名(7.9%)で、「全介助」が325名(4.9%)であった。2回目は、「自立」が5,507名(83.5%)で、「見守り等」が366名(5.5%)で、「一部介助」が496名(7.5%)で、「全介助」が228名(3.5%)であった。3回目は、「自立」が5,445名(82.5%)で、「見守り等」が414名(6.3%)で、「一部介助」が518名(7.9%)で、「全介助」が220名(3.3%)であった。4回目は、「自立」が5,433名(82.4%)で、「見守り等」が431名(6.5%)で、「一部介助」が548名(8.3%)で、「全介助」が185名(2.8%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「見守り等」「一部介助」「全介助」の割合が増加していたが、予防有用型群は、ほとんど変化がなかった。ただし、全介助は初回から4回目まで減少していた。

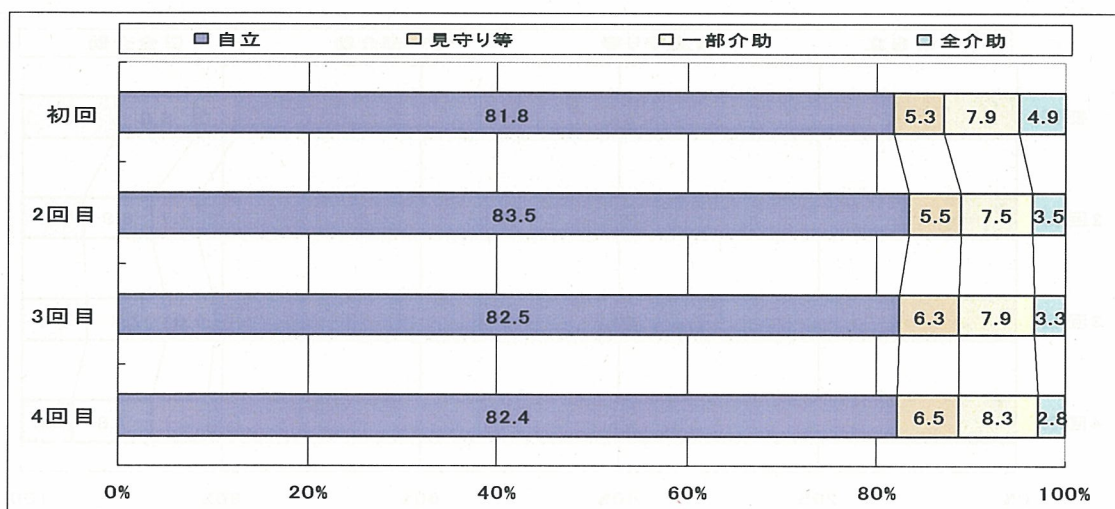
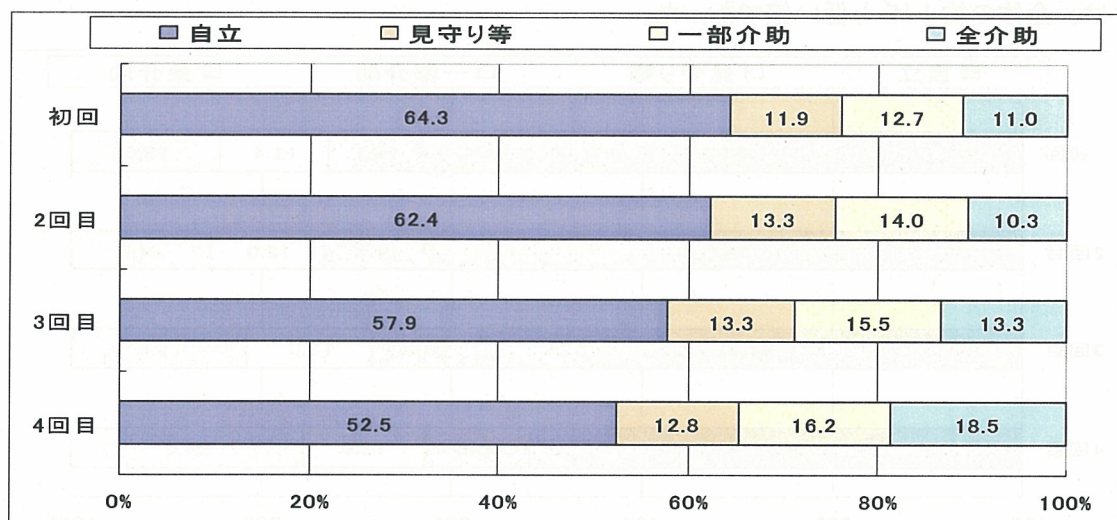


図 361・362 ボタンのかけはずし (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(10) 靴下の着脱

予防有用型では、靴下の着脱について、初回は、「自立」が5,194名(78.7%)で、「見守り等」が266名(4.0%)で、「一部介助」が526名(8.0%)で、「全介助」が611名(9.3%)であった。2回目は、「自立」が5,433名(82.4%)で、「見守り等」が307名(4.7%)で、「一部介助」が455名(6.9%)で、「全介助」が402名(6.1%)であった。3回目は、「自立」が5,326名(80.7%)で、「見守り等」が331名(5.0%)で、「一部介助」が511名(7.7%)で、「全介助」が429名(6.5%)であった。4回目は、「自立」が5,375名(81.5%)で、「見守り等」が374名(5.7%)で、「一部介助」が516名(7.8%)で、「全介助」が332名(5.0%)であった。

全体としては、初回から4回目にかけて「見守り等」「一部介助」「全介助」の割合が増加していたが、予防有用型群には、大きな変動はなかった。全介助については、初回から2回目に減少し、3回目に増加するが、4回目には再び減少し、5%を示していた。この割合は、全体の約1/5と低い値であった。

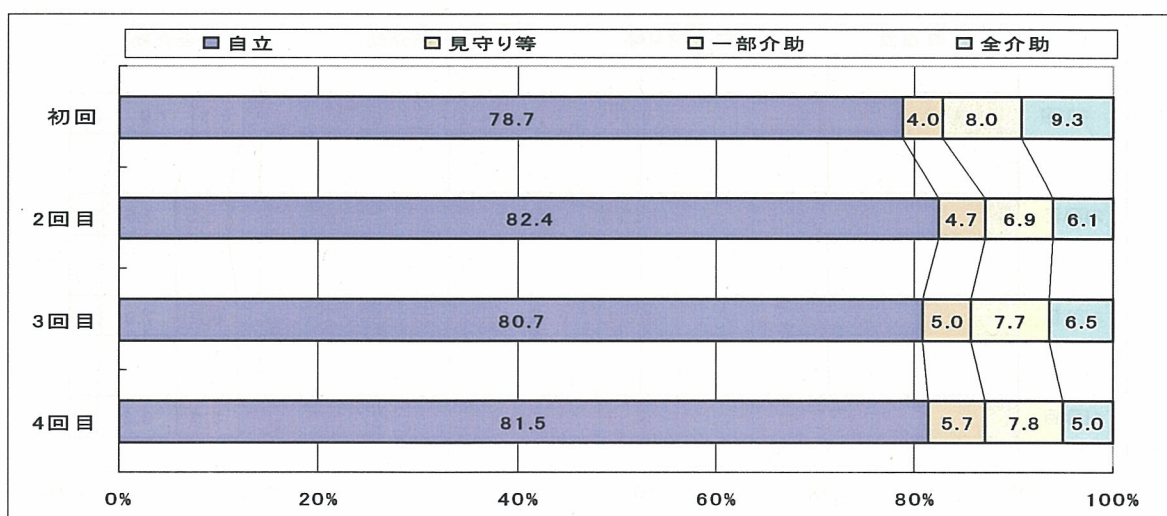
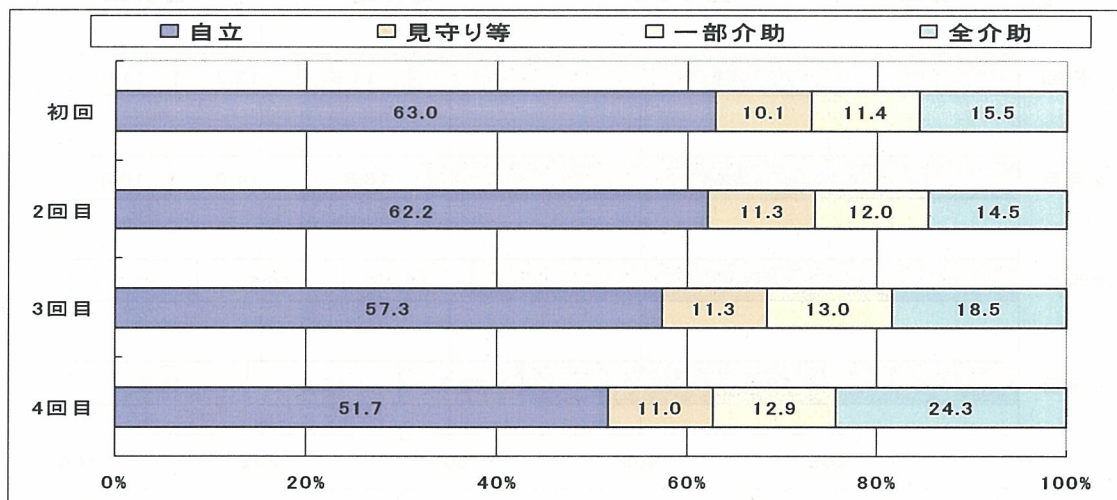


図 363・364 靴下の着脱 (上: 全体N=16,156, 下: 予防有用型N=6,597)

(11) 居室の掃除

予防有用型では、居室の掃除について、初回は、「自立」が 1,111 名 (16.8 %) で、「一部介助」が 2,542 名 (38.5 %) で、「全介助」が 2,944 名 (44.6 %) であった。2 回目は、「自立」が 942 名 (14.3 %) で、「一部介助」が 2,761 名 (41.9 %) で、「全介助」が 2,894 名 (43.9 %) であった。3 回目は、「自立」が 791 名 (12.0 %) で、「一部介助」が 2,812 名 (42.6 %) で、「全介助」が 2,994 名 (45.4 %) であった。4 回目は、「自立」が 673 名 (10.2 %) で、「一部介助」が 2,801 名 (42.5 %) で、「全介助」が 3,123 名 (47.3 %) であった。

全体としては、初回から 4 回目にかけて「一部介助」「全介助」の割合が増加し、予防有用型群も同様に増加していた。

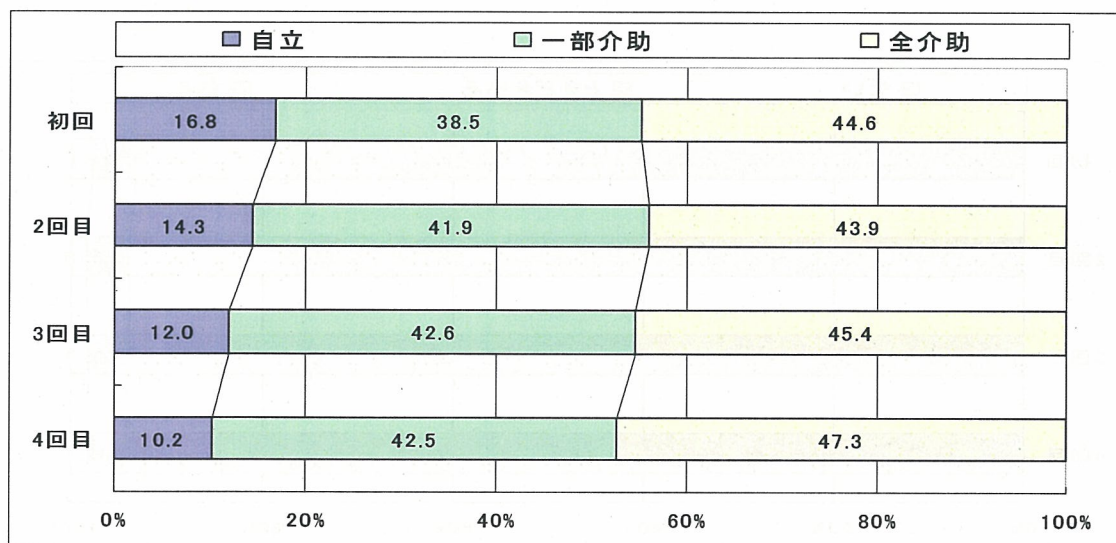
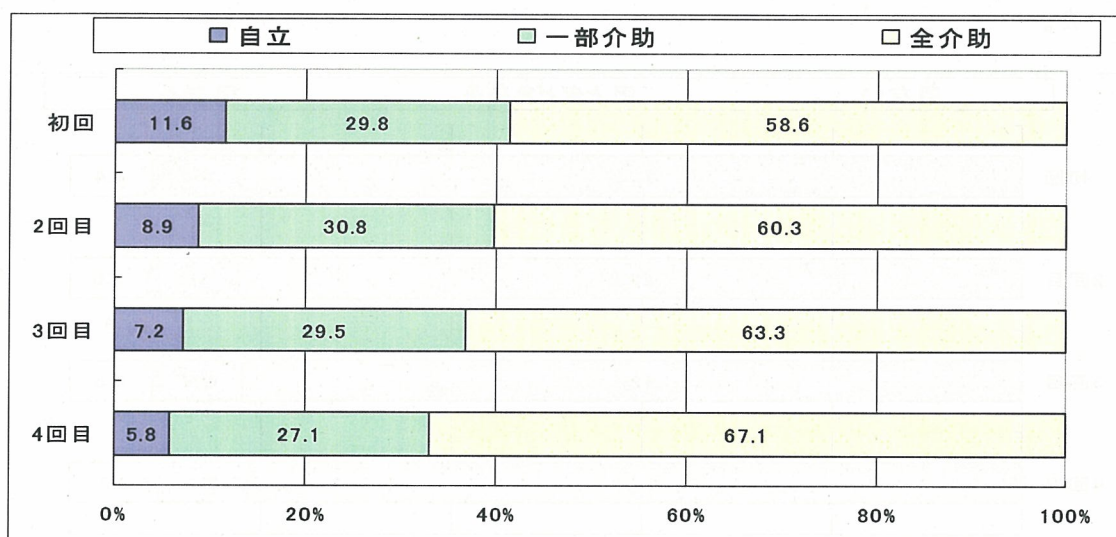


図 365・366 居室の掃除 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(12) 周囲への無関心

予防有用型では、周囲への無関心について、初回は、「ない」が6,154名(93.3%)で、「ときどきある」が303名(4.6%)で、「ある」が140名(2.1%)であった。2回目は、「ない」が6,200名(94.0%)で、「ときどきある」が297名(4.5%)で、「ある」が100名(1.5%)であった。3回目は、「ない」が6,202名(94.0%)で、「ときどきある」が277名(4.2%)で、「ある」が118名(1.8%)であった。4回目は、「ない」が6,219名(94.3%)で、「ときどきある」が264名(4.0%)で、「ある」が114名(1.7%)であった。

全体の傾向と同じく、予防有用型群についても「ときどきある」「ある」は、初回から4回まで、ほとんど変化していなかったが、初回よりも4回目のほうが、その割合は減少していた。

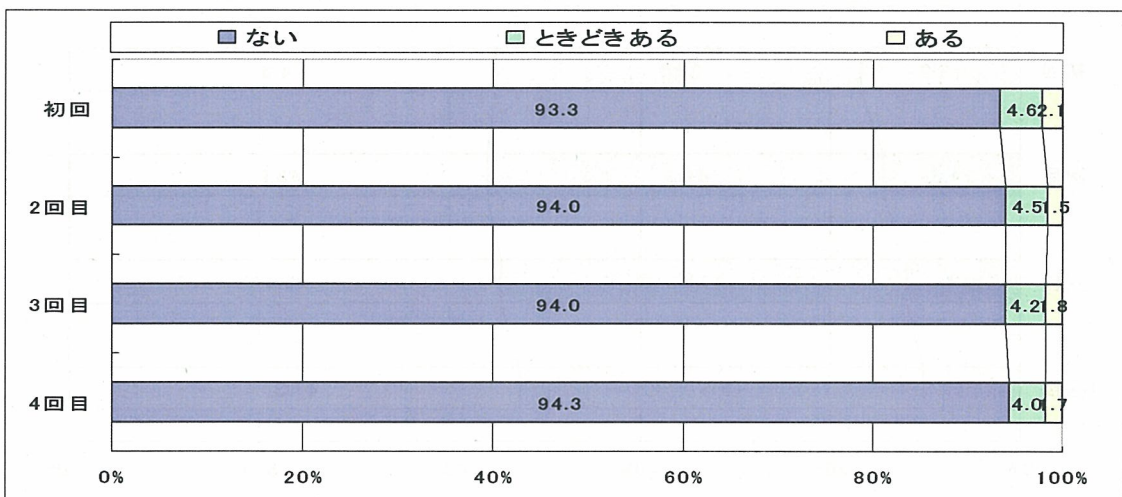
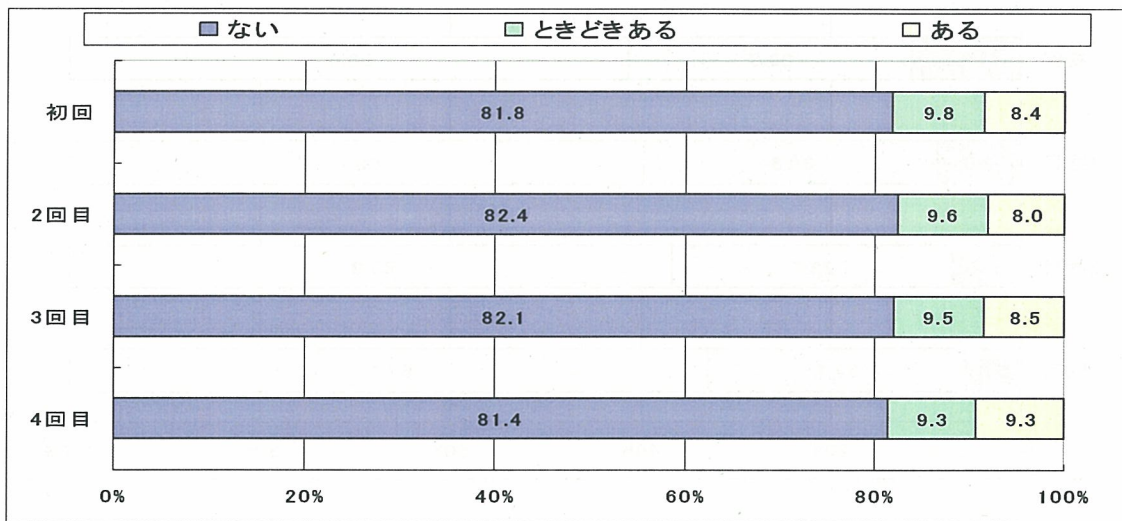


図 367・368 周囲への無関心 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)

(13) 性的迷惑行為

予防有用型では、性的迷惑行為について、初回は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が1名(0.0%)であった。2回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。3回目は、「ない」が6,591名(99.9%)で、「ときどきある」が4名(0.1%)で、「ある」が2名(0.0%)であった。4回目は、「ない」が6,592名(99.9%)で、「ときどきある」が2名(0.0%)で、「ある」が3名(0.0%)であった。

全体の傾向と同様に予防有用型群も「ときどきある」「ある」は、ほとんどなく、初回から4回目までの変動もなかった。

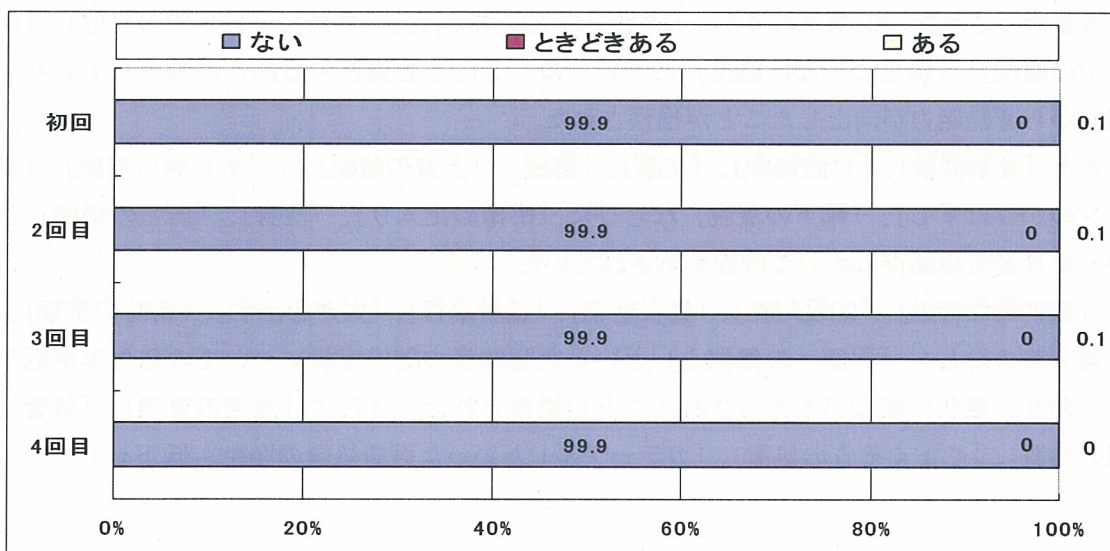
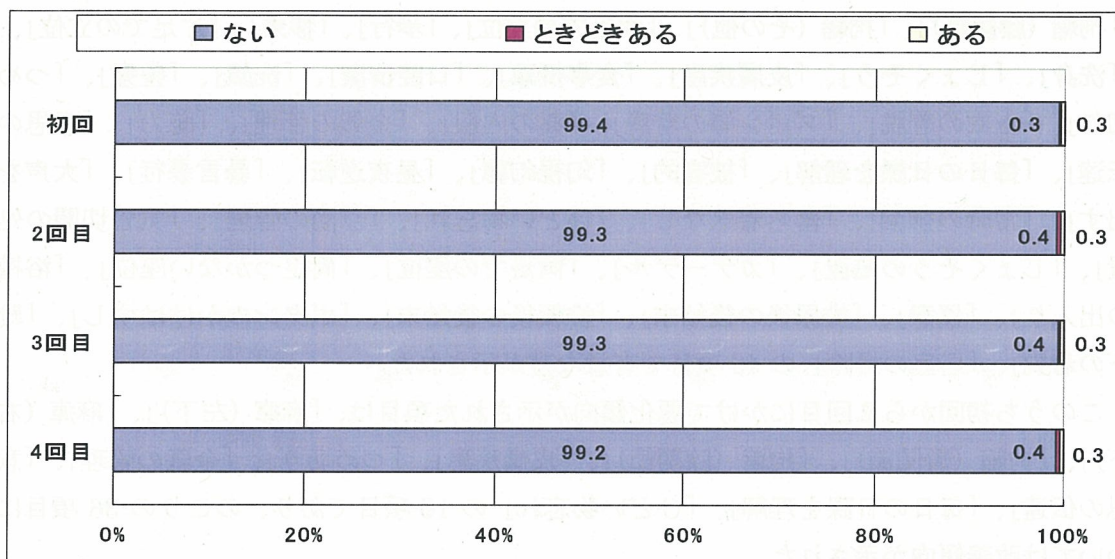


図 369・370 性的迷惑行為 (上: 全体 N=16,156, 下: 予防有用型 N=6,597)